

『Matrox Monarch EDGE S1』が【第29回おきなわマラソン2024】の中継に採用 沖縄テレビ放送株式会社 様



双方向同時エンコード・デコードに対応するオールインワン・モデル『Matrox Monarch EDGE S1』が、沖縄テレビ放送株式会社の中継にて採用されました。
そのご使用状況やメリットなどを同社 制作技術部のご担当者、幸喜様にお伺いしました。

どのようにご使用されましたか

4台の『Monarch EDGE S1』を使用しました。うち2台を本社に設置し、残り2台は中継拠点2カ所(競技場のマラソンスタート・ゴール地点、およびコース内の中継場所)にそれぞれ1台ずつ設置しました。

本社と競技場の信号の送受信で使用し、さらにカメラのSDI信号を中継拠点から本社へ伝送・本社から中継拠点へ送り返し伝送するために使用しました。あわせてインカム用のAUDIO系統を使用して、本社～中継拠点間の連絡線を構築しました。

『Monarch EDGE S1』を選んだ理由は何ですか？

双方向同時エンコード・デコード、タリ-信号の出力、音声の送受信が1台でできる点を評価して選びました。
また、製品の信頼性の高さも重要でした。

『Monarch EDGE S1』を使用することで、どのような問題が解決されましたか？

これまでは本社と中継現場との信号の送受信で、エンコーダーとデコーダーの2台必要でしたが、(オールインワンモデルの)『Monarch EDGE S1』だと1台で済むので機材がコンパクトになりました。また、本社と現場間の連絡線として4Wを申請していましたが、『Monarch EDGE S1』のAUDIO端子で連絡線が構築できるため、その申請も必要なくなりました。『Monarch EDGE S1』だけで映像の送受信や連絡線の構築ができることで、作業が効率化できました。

マラソン中継以外でもお使いでしたらご用途を教えてください。

主に生放送の中継などで使用しており、中継現場から本社への映像伝送、本社から中継現場への映像の送り返し、連絡線の構築などを目的に使用しています。今後はリモートプロダクションに向けても考えていければと思います。

ご担当者からのコメント

『Monarch EDGE S1』は1台でエンコーダー/デコーダーの同時処理機能を持っているので、少ないネットワーク回線でSDI信号の送受ができるのは大変助かります。また、これまで別回線で行っていた連絡線の構築も、インカム用のAUDIO系統を利用して対応できるため、制作コストの削減にもつながり、非常に有用でした。

現在は、本社への送り映像は、主に予備系統として使用しています。今後、ネットワーク回線環境がより安定することで、中継本線としての運用も検討していきたいと考えています。

本社サブで、中継2拠点向けに設置した『Monarch EDGE S1』



中継車内での『Monarch EDGE S1』。本社への送付、送り返し受け、連絡線で使用



Matrox Monarch EDGEについて



最新の配信環境に最適化された4K/マルチHD配信及びリモートプロダクション向けエンコーダーです。H.264エンコーダーは汎用性が高く、様々な環境に対応することができ、異なる機器間における相互運用の安定性という点で、最良の選択肢であるといえます。4Kの映像配信やマルチカメラ配信、リモートプロダクションなど、多くの用途でご活用いただけます。



ジャパンマテリアル株式会社 グラフィックソリューション部

E-mail : sales-it01@j-material.jp URL : <https://jmsg.jp/>

東京本部 〒102-0082 東京都千代田区一番町5-3アトラスビル4F

名古屋営業所 〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4-24-5第2森ビル8F

※記載されている内容は予告なしに変更される場合があります。※記載された商品名は各社の商標または、登録商標です。